

今シーズン初の1大会2レース開催でKids com Team KCMGが大躍進
第6戦で小林可夢偉が5年ぶりの表彰台を獲得し、
第7戦では福住仁嶺がチーム移籍後初の表彰台を獲得!

2024 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦/第7戦 レポート

開催日程	2024年10月12日(土)/10月13日(日)	開催場所:富士スピードウェイ(4.563km)
大会名称	2024年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦/第7戦(41周または75分/参加台数:21台)	
天候/気温	10月12日(土):晴れ/気温19度→23度 10月13日(日):晴れ/気温22度→25度	
観客動員数	10月12日(土):18,600人 10月13日(日):24,800人 計:43,400人(主催者発表)	

課題が多く残った前戦茂木から約1ヶ月半。今シーズン初の1大会2レース開催となる第6戦、第7戦が富士スピードウェイを舞台に行われた。今大会は通常の走行フォーマットとは異なり、金曜日に90分間の専有走行、土曜日に第6戦の予選・決勝、そして日曜日に第7戦の予選・決勝という慌ただしいスケジュールで進行していく。今回のインターバルでKids com Team KCMGは課題克服のための様々な施策を行ってきた。また、レースの前にドライバー、総監督、監督、チームアンバサダーを含めたチームのメンバーが集まり、士気を高めるためのミーティングも行って気合十分で今大会に臨むこととなった。前回(7月)の富士からすると秋を感じる涼しい気候へと変化したが、チーム初のポールポジションを獲得したサーキットで2回もレースができるということもあり、初優勝への期待は大きく膨らんだ。

第6戦 予選:10月12日(土)

天候/気温/路面	晴れ / 気温:19度 / 路面温度:25度 / 路面コンディション:ドライ
#7 小林 可夢偉	Q1A組:6位 / 1'22.656 Q2:11位 / 1'22.565
#8 福住 仁嶺	Q1B組:6位 / 1'22.659 Q2:1位 / 1'21.726

9時00分、気温19度、路面温度25度、朝から爽やかな青空が広がる中、予選Q1がスタート。A組に出走したのは小林で、ユーズドタイヤでクルマと路面のコンディションを確認するとピットに戻ってきた。残り時間が5分半となったところでニュータイヤを装着して再度コースに向かい、2週のウォームアップラップでタイヤを温めて3周目にアタック開始。1'22.656をマークし、6番手でQ1を突破した。

5分間のインターバルを経て、B組が始まったのは9時15分。福住も小林同様にユーズドタイヤでチェック走行をしてピットに戻ってくる。残り時間7分となったあたりでニュータイヤを装着した福住はピットをあとにする。福住も2週のウォームアップのあとにアタックラップに入り、6番手タイムとなる1'22.659をマーク。2台揃ってQ2進出を果たした。

10分間のインターバルを経て、いよいよポールポジションを決定づけるQ2がスタートしたのは9時35分。セッションが始まるとすぐにコースインしたのは福住。Q1後のインターバルで施したセッティングのアジャストが功を奏し、Q1のタイムを1秒近く更新する1'21.726を叩き出してトップに浮上した。その後、福住のタイムを上回るドライバーは現れず、今季2度目のポールポジションを獲得した。一方、小林はセッション開始から1分ほど待ってコースに向かい、2週のウォームアップラップ後にアタック開始。だが、思うようにタイムは伸びず、11番手(1'22.565)に留まった。

第6戦 決勝:10月12日(土)

天候/気温/路面	晴れ / 気温:23度 / 路面温度:32度 / 路面コンディション:ドライ
#7 小林 可夢偉	3位 / 59'10.140 / 1'24.638
#8 福住 仁嶺	5位 / 59'15.982 / 1'24.708

14時50分、気温23度、路面温度32度のコンディションでレーススタート。ポールポジションからスタートした福住はホイールスピンの影響で加速が鈍り、6番手までポジションダウン。コカ・コーラコーナーでは#6太田選手と接触し、フロントウイング右翼端版にダメージを負った。太田選手とのバトルはスタート直後から10周目まで続き、福住はホームストレートで前に出ることに成功。5番手のポジションを守った。一方、11番グリッドからスタートした小林はスタート前にマシントラブルやエンジンストールに見舞われた車両をかわして、9番手でオープニングラップを終えた。3周目、#50木村選手にかわされ10番手にドロップしたが、6周目の1コーナーで抜き返し、9番手にポジションを戻している。

ピットウィンドウが開くと早めのピットインを選択したのは小林。クルーは11周終了のタイミングでタイヤ交換を行い、15番手でコースに送り出した。福住はフロントウイングを交換するのかもしれないタイミングでピットに入るかを考えた結果、翼端版を失った状態でも好ペースで走行していたため、しばらくコースにステイすることにした。22周終了のタイミングで福住はピットイン。問題なくタイヤ交換を済ませ、12番手でコースに戻った。

22周目、非常に良いペースで周回を重ねる小林はヘアピンでアウトラップの#16野尻選手オーバーテイク。ここから両者オーバーテイクシステムを使いながらのバトルが展開され、25周目の1コーナーで小林に軍配が上がると実質4番手に浮上した。その後は前を走る太田選手との7秒近くあったギャップをじりじりと詰めていき、30周目のホームストレートでかわすと、表彰台圏内の3番手までポジションを上げた。最後まで快走を見せ、前を走る#15岩佐選手まで1秒を切るところまで迫っていったが、ポジションキープの3番手でチェッカーを受け、2019年第5戦茂木大会以来、約5年ぶりに表彰台を獲得。Kids com Team KCMGのピットは歓喜に包まれた。

福住は25周目の300Rで#3山下選手をパスして10番手に浮上。全車のタイヤ交換が完了した28周目には8番手を走行していたが、30周目のホームストレートで#65佐藤選手を攻略して7番手にポジションを上げた。36周目の100Rで太田選手、最終ラップのコカ・コーラコーナーで野尻選手をかわすと5番手にポジションアップ。手負いのクルマで終始苦しい走行となったが、見事5位入賞を果たした。

第7戦 予選:10月13日(日)

天候/気温/路面	晴れ / 気温:22度 / 路面温度:26度 / 路面コンディション:ドライ
#7 小林 可夢偉	Q1B組:5位 / 1'22.798 Q2:9位 / 1'22.789
#8 福住 仁嶺	Q1A組:5位 / 1'22.629 Q2:3位 / 1'22.218

久しぶりに表彰台を獲得した第6戦から一夜明け、秋晴れが続く富士で第7戦の予選が始まった。9時00分、気温22度、路面温度26度のコンディションの下、Q1がスタート。A組に出走したのは福住で、前日同様の戦略でタイムアタックを行った。残り時間7分20秒のタイミングでピットを後にすると計測3周目にアタック開始。1'22.629をマークし、5番手でQ1を突破した。

5分間のインターバルを経て、9時15分からB組がスタート。小林も前日同様の戦略で、セッション開始から4分というところでコースインするとアタックラップに1'22.798をマーク。小林も5番手で、2戦連続2台揃ってのQ2進出を決めた。

10分間のインターバルを経て、Kids com Team KCMGにとって富士大会3連続ポールポジション獲得をかけたQ2がスタートしたのは9時35分。セッションが始まると2台は揃ってコースへと向かった。先にアタックに入った小林はトップスピードが伸び悩み、9番手(1'22.789)に留まった。続けてアタックした福住は小林のタイムを上回る1'22.218をマークし、セカンドローの3番手を獲得した。

第7戦 決勝:10月13日(日)

天候/気温/路面	晴れ / 気温:25度 / 路面温度:35度 / 路面コンディション:ドライ
#7 小林 可夢偉	5位 / 1:10'29.418 / 1'24.515
#8 福住 仁嶺	2位 / 1:10'25.104 / 1'24.348

14時40分、気温25度、路面温度35度のコンディションでレーススタート。3番グリッドからスタートした福住は1コーナーまでに1つポジションを落としてしまい4番手に。一方、まずまずの動き出しを見せた9番手スタートの小林は#39大湯選手と#64山本選手をかわし、2つポジションを上げてオープングラップを終えた。3周目、コース上にストップ車両が発生したため、セーフティーカーが導入された。6周終了のタイミングでリスタートが切られると、1コーナーで福住が野尻選手のアウト側から並びかけ、パッシングに成功。10周目の1コーナーでも#5牧野選手をオーバーテイクし、2番手に浮上した。

ピットウィンドウが開くミニマムのタイミングでピットに入ったのは小林。福住との同時ピットインを避け、自身が早めに入ることによってレースに動きが出て、福住に良い影響が出る可能性もあると考えた小林は前日同様の早めのピットインを選んだのだ。難なくタイヤ交換を済ませると17番手でコースに戻った。福住は12周終了のタイミングでピットイン。その直後にコース上のストップ車両回収のためのセーフティーカーが導入されたが、福住はポジションキープの2番手でコースに復帰した。2回目のレースリスタートが切られたのは16周終了のタイミング。福住は2番手、小林は10番手からさらに上位を目指していく。

18周目の1コーナーで福住は佐藤選手の先行を許したが翌週の1コーナーで逆転し、2番手のポジションを取り戻した。30周を過ぎたあたりから福住はトップの坪井選手との差をじわじわと詰め始め、僅か0.3秒のところまで迫っていった。だが、33周目にクラッシュ車両が発生したため、3回目のセーフティーカーが導入された。39周目終了のタイミングでリスタート。残り3週の超スプリントレースでオーバーテイクシステムも使いながら最後まで攻めの姿勢を見せたが、残念ながらオーバーテイクには至らず2番手でチェッカー。福住にとってチーム移籍後初の表彰台獲得となったが、悔しさの残る2位となった。

小林は22周目のスーパーカーで#38阪口選手、29周目の1コーナーで#3山下選手をかわして8番手にポジションアップ。29周目の最終コーナーから3周に渡って野尻選手との攻防戦を展開し、前に出ることになった小林は7番手まで浮上した。第7戦でも良い走りを見せる小林は3度目のセーフティーカーが解除されると39周目のホームストレートで岩佐選手をかわし6番手までポジションを上げ、最後まで果敢に攻め続けたが、そのままチェッカーとなり、6位フィニッシュとなった。レース終了後、4位の佐藤選手は再車検で最低重量違反により失格という裁定が出されたため、1つ繰り上がった5位となった。

初優勝こそ叶わなかったが、2台ともに表彰台を獲得し、チームの成長を感じることができた今大会。2日間で38ポイントという大量ポイントを獲得し、チームランキングは4位に浮上した。この結果に満足することなく、まだまだたくさんある課題を1つずつ克服していき、みんなが笑顔でシーズンエンドを迎えられるように、さらに気持ちを引き締めて臨んでいく。たくさんの応援、ありがとうございました。

ドライバーコメント

7号車 小林可夢偉選手

第6戦の予選はすごく速かったわけではないので、決勝で何かミラクルがあったように思います。クルマがとても速かったです。前回の表彰台が5年前と言われると心に刺さるのであまり言っていただきたくないと思うのですが、実際にはそれが現実で、まずは本当にこれまで応援していただいた方々に感謝したいと思います。ピットストップを早くして11周目に入りましたが、クリーンエアで良いペースで走ることができました。スタート自体は11番手だったのですが、それが一気にジャンプアップできた理由になったと思います。福住選手がこの富士でポールポジションを2回獲って、富士ではクルマが良いことはわかっているけどそれを僕が予選で活かせなくて、レースでそれをなんとか挽回できたというだけなんです。ラッキーなことに明日もレースがあるので、しっかりやり切ったと思えるようなレースをしたいと思います。

第7戦の予選はうまくいってないです。決勝はもっと良いレースを期待していました。早めのピットストップを選択して、ここからだ!という時にSCが入ってしまい、厳しい展開になってしまいました。そのあともなんとか意地のみで順位を上げて行きました。直線の伸び悩みが解消しないので、意外なところで抜きに行くしかなくて、変な技を使って抜きに行かないと正当なラインでは抜けない状態でした。昨日も予選のポジションさえ良ければクルマも速かったので、勝ちたかったというのが本音です。すべてのピースははまらなかったけど、流れとしては良かったと思います。最後の鈴鹿は優勝だけを考えて準備します。

8号車 福住仁嶺選手

第6戦はまさかポールポジションを獲れると思ってなかったです。Q1突破がギリギリだったので、今回は厳しいかなと思っていたのですが、クルマをアジャストしたら獲れたのでビックリしました。決勝ではスタートの失敗から色々狂ってしまって、翼端版が取れてしまったことで序盤はきつかったです。明日も予選で前にいることが大事だと思うので、またポールポジションを獲りにいきたいと思いますし、チームの全員で『良いレースができた』と思えるようなレースをしたいです。

第7戦、決勝2位は悔しいです。でも、予選も悪くないポジションだったし、こうやって勝てるチャンスがめぐってくるんだと思います。レース後半のタイヤの状態は楽な感じではなかったのですが、前を走る坪井選手のミスが少しずつ見えてきて、チャンスかもと思ったタイミングでSCが出てしまいました。スタートで4番手に落ちてから2位まで戻って来られたのは非常に良かったと思います。今日はチームのみんなも頑張ってくれて、ピット作業もうまくいきました。最終戦の鈴鹿は、個人的には相性は悪くないサーキットですし、今年やってきたことがどれだけ通用するのかというところで非常に楽しみな部分が多いです。チームとしては、昨日は小林選手が表彰台に乗れて、今日は僕が乗れて、2戦連続で流れとしては良いと思うので、この勢いのままもっともっと強いチームにしていきたいと思います。

チーム監督コメント

土居隆二チーム監督

第6戦、予選は第4戦に続き、福住がポールポジションを獲ってくれて良かったです。決勝はスタートでミスして、その後太田選手とぶつかって翼端版を破損しました。ピットに戻そうかと考えたけど、良いペースで走っていたので、そのままステイにしました。戦略もあとから思えばこうすれば3位争いをチームメイト同士でできたかもしれないと思うこともありますが、まずは5位でフィニッシュできて良かったです。小林はとても速くて、5年ぶりの表彰台をもたらしてくれました。我々はサーキットでエンターテイメントとして楽しんでいただけることも大切なので、そういう姿を見せられたことも良かったです。予選のポジションが良ければ勝つことも考えられたレースだったと思います。メカたちも頑張りました。

第7戦、福住は予選で変わらず調子が良かったのですが、坪井選手がとても速かったので、あそこに追いつくためにやることはまだたくさんあると思います。でも、3番手もレースで十分前にいけるポジションなので悪くないですし、決勝前にポイントを取ってくれたのは良かったです。決勝では二人とも上位争いができるかなと思っていましたが、SCにやられてしまいました。SCが入らなければ、福住がトップ争いをするところを見られたかもしれないです。ただ、坪井選手は最後までOTSをあれだけ残していたので、あの差は簡単には追いつけないと思います。改善して、また他のサーキットでもレースが楽しめたと言っただけのように頑張ります。次戦の鈴鹿でもポールポジションが獲れるように、次こそ表彰台の頂点を目指して頑張っ参ります。引き続きの応援、よろしくお願いいたします。